

『国語』の表紙について

生駒さちこ（イラストレーター）



3年

2年

1年



神戸市出身。会社員を経てイラストレーターになる。セツ・モードセミナー卒。二〇〇六年よりフリーランス。挿画、広告、テキストなどさまざまな分野で活動中。水彩による一枚絵、空気感のある絵を得意とする。鉛筆、三色カラーシャープペンシルによるドローイングにも力を入れる。二〇〇九年より関西出身のイラストレーターユニット「なりゆきサーカス」に参加。
<https://coconatz.com/>

今回の表紙画を制作するにあたり、編集部と相談を重ね、テーマを「つながる世界」としました。一年から三年まで、一年ごとにそれぞれ、海より生まれ、大地を駆け回り、空へと羽ばたく、という個別のテーマをもたせました。横に並べると三枚の絵が一つにつながる構成で世界のつながりを表現し、さらに三枚の絵を通して、小さな世界から少しずつ他者につながり、広い世界と出会い、理想へ向かって進んでいく、人間が成長するイメージを重ねました。

自分、家族、友達、地域、学校、食べ物、お金、歴史、政治、日本、自然、地球、一見ばらばらに思える物事は、実は大きく緩やかにつながっています。

他者とのつながりを考えるとき、言葉がもたらす影響は大きく、言葉によって私たちは他者を、そして社会を知っていきます。世界と出会うとき、人はおそろしく想像を超えた広さと美しさに触れ、そこからさまざまなことを教えられ、次には誰かに伝えていきます。言葉をもって。

理想へ向かって進むとき、短い言葉で的確に伝える技を身につけていたら、そのことは自分を助け、他者をも助けることができるかもしれません。自分とそれ以外をつなぐ境界としての言葉は、うまく使いこなせば、この上なく便利な道具として自分を守る武器となり、反対にたやすく人を傷つけることもできます。言葉の力を使ってどう世界とつながるか、いかに伝えるかということは、受け取ることに加え、発していく機会が増えた現代社会においてさらに重要性を増すでしょう。

あなたの言葉は、誰かに届く。

だからこそ国語を学び、受け取る力に増してアウトプットの力をより大切に育ててほしいと願います。

少しだけ先に大人になった者より、未来の大人になる中学生へ。

言葉の力を味方につけて、正しい知識と知恵をもって美しい世界とつながり、一人一人が自分の物語を力強く羽ばたけますように。そんなエールを贈る気持ちで描きました。